

税制全体のグリーン化推進検討会座長  
神野先生

本日の会議はどうしても抜けられない先約のため欠席いたします。「今後の検討の進め方」について意見を申し上げます。

委員 大塚 直

税制全体のグリーン化の推進に関するこれまでの議論の中間整理を踏まえ、持続可能な社会の構築のために、環境関連税制の実現に関する工程表を検討すべきものと思われまが（資料 3）、具体的に何が考えられるかについて意見を申し上げます。

①低炭素社会のためのまちづくり、コンパクトシティの実現のため、既にこの会議でも議論のあったように、相続税制を活用することなどにより、住民にインセンティブを与えることが必要である。これについては規制で対応することももちろん考えられるが、居住地の選択について規制のみに頼ることは困難であり、税のような経済的手法を用いる方が比較的緩やかな対応として有効であると考えられる。コンパクトシティの実現は、温暖化対策の観点だけでなく、人口減少社会を迎えるに当たっての社会的費用の削減の観点や防災の観点も重要であり、社会的費用削減効果については数量的な分析を行うことが望ましい。具体的には、京都議定書目標達成計画の後続計画の策定も踏まえたうえで、工程表を作ることが考えられる。

②フロン（代替フロン）は、二酸化炭素に比べて温暖化係数が数千倍にも及ぶため対策の費用効果性が高い一方、その製造販売に対して直ちに規制をすることも難しいため、フロン税を導入することが必要である。フロンは上記のように温暖化係数が高いだけでなく、色も臭いもなく、一度用いるとその回収破壊を実効的に行うことは極めて困難な物質であることから、代替物質への転換を早急に行うべきであるし、転換すべき代替物質は既に目処がついていることから、税により転換を促進することは現実的である。なお、フロン税の税収（の一部）をフロンの回収破壊の費用に充てることも同時に検討すべきである。現在フロン回収破壊法の見直しの時期となっており、当局は従来の規制の方向をなお維持・強化しようとしていると思われるが、上記のようなフロンの特殊性に鑑みると必ずしも賢明な選択とはいえないと考える。フロン回収破壊法の見直しとの関係では、フロン税の導入は早急に（たとえば 2014 年から）行われるべきものと考えられる。フロン税は徴税執行の可能性に鑑み、製造事業者に対して課税する国税とすることが適当であると思われる。

③産業廃棄物については、その費用効果的な排出抑制を継続的に図り、（税率を上げた場合にも）地域間での廃棄物の移動に歪みを与えず、中間処理施設と最終処分場の場所が県をまたがる場合に二重課税にならないため、また、地域間（特に首都圏と地方）での廃棄物移動による受益と受苦の不公平を是正する目的で、すでに地方自治体で導入されている産業廃棄物税を法定税化し、又は国税化し、地方譲与税とすることが考えられる。現在、産業廃棄物の不法投棄・不適正処理の場合の受入県の行政代執行の費用を一部補填するため、産業界からの基金制度が存在しているが、これは産業界からの反対で風前の灯の状態

にあり 2, 3 年後には消滅する可能性が高く、その意味でも、このような税の導入は必要であると考えられる。2015 年頃までの導入が望まれるところである。

④レジ袋及びワンウェイ容器については、容器包装の「発生抑制」の観点から税の導入の検討が必要である。容器包装リサイクル法（容リ法）の見直しの時期が迫っているが、責任分担の議論だけでは、循環型社会形成推進基本法において施策の第 1 順位である「発生抑制」を容器包装について実現することは難しく、かといってこれらの容器の販売規制は営業の自由の観点からやや困難であるところから、税の導入の検討が必要となる。特にレジ袋については NPO からは販売禁止の提案もなされているが、上記の観点から、税のような経済的手法の検討が容リ法の次期改正においても必要となると考えられる。その場合には 2015 年あたりの税の導入を工程表に入れることになる。レジ袋税についてはわが国ではかつて杉並区が条例化したことが、実施されなかった。レジ袋税を導入する際には、レジ袋自体が安価なものであるため、徴収コストを低減化することが必須であるが、その方法としては製造事業者から徴収することとし、国税としつつ地方譲与税とすることが考えられる。なお、ワンウェイ容器等に対する税・賦課金については、北欧では 20 年以上の歴史があるが、そのような諸外国の動向や、わが国の持続可能な発展のためにどこまで「発生抑制」の対策をとるべきかという点を整理しつつ、検討がなされるべきである。

⑤エネルギー課税の炭素税化及び⑥車体課税のグリーン化については、本検討会でもある程度方向性が示されたと思われるが、①と同様、京都議定書目標達成計画の後続計画の策定も踏まえて、工程表を作ることが考えられる。